

1 研究授業と振り返り

白脇小にて、「資料を用いた文章のよさを考え、説得力のある文章を書こう」という単元を設定し、授業実践を行った。研究授業では、「環境問題について、グラフなどの資料を用いて自分の考えを意見文にまとめよう」という学習課題に向かって書くための構成メモを作成し、主張と根拠のつながりをチェックリストを活用しながら交流する姿が見られた。また、交流の過程では、「ひとり学び」、「級友と交流」、「先生に聞く」などの学び方を児童自身が選択し、自分の課題に合わせて学習する主体的な姿が見られた。さらに、チェックリストを用いることで、根拠をもって意見を述べ合う対話的な活動が行われ、全国学力調査で指摘された課題にもつながる授業実践だった。

授業者からは、主張と根拠を適切につなげるための支援がうまくいかず、難しかったという課題が挙げられた。



【授業の様子】



【グループ協議】



2 グループ協議

授業後は、小学校会場、中学校会場に分かれ、事後研修を行った。

【グループ協議の記録】

	単元計画について	学びの調整	対話的な学び	その他(感想)
小学校会場	・「読む」活動と「書く」活動がしっかりとつながっていて、どちらとも必要感をもって学習できるようになっていた。	・「ひとり学び」「級友と交流」「先生と交流」など学習方法が選択できていた。 ・意見文の修正時間があると、さらに学びの調整が行えた。	・話し合う視点が定められていてよかったが、付箋を貼ったり、「○△」の記号だけでなく、その理由を書かせたりするとより効果的だった。	・振り返りシートの積み重ねがよかった。
中学校会場	・総合的な学習の時間とも重ねられた単元となっていた。じっくりと練られた付けたい力が身に付く単元計画だった。	・同じテーマにすることで資料を比較することができ、新たな気づきが生まれていた。	・目的意識と相手意識があると、より効果的なチェック活動ができる。	・これまでの積み上げの成果が出ていたため、短い指示で、児童が主体的な学習ができていた。

3 指導講評

浜松市の国語科研究部のテーマである「『言葉の力』を育てる魅力的な単元の創造」に迫る授業実践であった。また、学び方を自分で選択して学習を進めたり、級友との交流を中心に自分の考えを形成したりするなど、現在の学習指導要領で目指す目標に合致した授業となっていた。そして、今回の単元で扱った教材文が何より児童の興味関心を引く魅力的な文章で、その魅力を生かした素晴らしい単元計画となっていた。今後も授業改善を重ねていき、児童生徒の「言葉の力」を育てる国語科の授業を創造していくことが大切である。